

学生×NGOで取り組む！ 地域～世界の課題に発言・提案しよう！

1 目的・概要

私たちのプロジェクトではメンバーの共通の問題認識である「格差をなくす」という大きな目標を掲げて今年4月からスタートしました。貧困、紛争、差別など大小問わず格差が生み出す問題は世界中で山積しています。そこで、今回私たちが着目したのは“宗教における格差”です。

最近、イスラム過激派組織のニュースを耳にしない日はありません。日本における宗教への理解不足の現状から、私たちは「イスラム教に対する怖い意識をなくし、イスラム教徒偏見なく向き合うフラットな入り口を提供すること」を最終目標として設定しました。メンバーで議論した結果、「メディア」と「教育」が格差の原因であるという結論に至り、それぞれの面から実際にアクションを行いました。

Annual Schedule

2016年	4月	アドボカシーことはじめ		
	5月	ゲストスピーカーのお話 個人の興味があることプレゼンテーション		
	6月	ゲストスピーカーのお話 取り組むテーマ決め 大きなテーマが「格差をなくす」に決定 「イスラム教」にテーマを絞る		
	7月	ヒアリング調査 イスラム教を専門とする教授を訪問		
	8月	ヒアリング結果や既存のデータ分析		
	10月	イスラム教に怖い意識が生まれる原因として、メディアと教育の二つに絞り アクション決め 二班に分かれて具体的なアクション決め		
	11月	各班：企画準備		
	12月	メディア班：アクション実施 ディスカッション～イスラムとメディアについて考える～ 教育班：企画準備		
2017年	1月	メディア班：成果まとめ 教育班：イベント実施 イスラム教と偏見なく向き合う入り口を提供します～食編～ 成果報告会準備		

2 成果達成度

〈メディア班〉

「ディスカッション～イスラムとメディアについて考える～」

日 時：12月18日（日）14：30～17：00

場 所：同志社大学寒梅館会議室6A

参加者：8名



春学期に行ったイスラム教に関する意識についてのヒアリング調査結果によると、イスラム教に対する「怖いイメージ」はメディアから伝えられる報道が原因の一つであることがわかりました。度重なる報道によって、書き手側（情報発信者）が伝えた“事実”が少しずつねじ曲がって受け手側（情報受信者）に伝わってしまっているのではないかと考えました。

そこで、少しでもその認識の違いを解消し、イスラム教の理解を深めることを目的としたディスカッションの場を提供しました。書き手側（記者）、読み手側（学生等）、当事者（ムスリムの方）、専門家（教授）に集まっていただき、それぞれの立場にたってディスカッションをしていただきました。

参加していただいたムスリムの方は当事者としてもっと積極的にこの問題について関わっていきたいと考えていること、メディアにもムスリムたちが出る機会が増えてほしいと思っていることなど、主催者側にとっても新しい気づきがたくさんありました。

短い準備期間の中で可能なアクションは限られたものでしたが、異なる視点での問題意識を学ぶことができた、とても有意義なディスカッションとなりました。

〈教育班〉

「アラブ飯を食べよう！」

日 時：1月14日（土）14：30～18：00

場 所：アラシのキッチン（ハラール食を中心としたインド・ペルシャ料理のお店）

参加者：15名



教育班では、前掲のヒアリング調査からイスラム教に対する「怖いイメージ」が生まれるもう一つの原因に教育が関係していると考えました。こちらの班では一方的に知識だけを提供する授業ではなく、参加者にイスラム教を正しく理解し、関心を持ってもらうきっかけづくりになるイベントを企画・実行しました。

「アラブ飯を食べよう！」というテーマのもと、食文化を通してイスラム教を少しでも身近に感じてもらうことがこのイベントの目的です。1月中旬に京都市内にあるハラール料理を提供しているレストラン、アラシのキッチンに全面的に協

力していただき、ゲスト講師としてイスラム料理研究家の方をお招きしました。

参加者はハラール料理を実際に調理するグループとゲームやプレゼンテーションを通してイスラム教を学ぶグループに分かれ、それぞれの「学び」を体験しました。当日アンケートの結果から、イベントを通してイスラム教に対する興味関心を高めることが出来ました。



3 プロジェクトを通じて



本プロジェクトは、春学期にお招きした講師の方々のお話や個人の感心をもとに、プロジェクトでの課題を設定し、私たちなりのアプローチを考えました。意見がまとまらないこともあり、メンバー間での意思疎通がうまくいかなかった時期もありますが、最後には二つのアクションを通じて各メンバーが大きく成長できたのではないかと思います。

自分で課題を設定し、問題解決までのすべてを自分たちでやり遂げました。多くの方の協力があったからこそ達成できたプロジェクトであると思っています。ここに感謝の意を示すとともに、このプロ

ジェクトでの学びをこれからの活動に活かしていきたいと思います。

またこのプロジェクトの全体を通して自分たちで自発的に行動することに意味があると思っています。何か疑問に思うことや、協力を要請する際にも実際に足を運んでみないとこれらの問題は解決できませんでした。本プロジェクトにご協力頂いた方々に感謝とともに、ここでの学びをこれからの活かしていきたいです。



編集後記

今出川校地開講のプロジェクトでしたが、京田辺からも2名の学生が参加してくれました。各個人が多様な経験をしているからこそ、アイデアを出し合う際にも自分1人では思い付かないような案が出たり、仕事を配分する際にも、個人の得意分野を活かした役割分担ができたりと、それぞれの個性を活かした活動ができました。

一年を通過して携わってくださった方々には感謝の気持ちで一杯です。本当にありがとうございました。

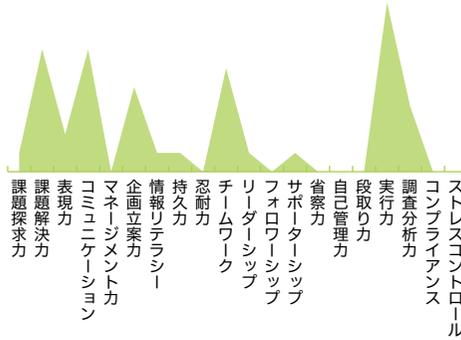
プロジェクトメンバー

楠 佳歩(文2) 高砂 陽香(文3) 磯部 愛(社会3) 加地 真理子(社会3) 風岡 孝輔(経済3)
桑名 亜起子(商3) 長瀬 真優(政策2) 西山 加奈子(政策2) 細見 真菜(グローバル地域文化3)
吉田 竣(グローバル地域文化3) 河合 有希子(文化情報2) 金城 佳恋(文化情報2) 安藤 理(SA)

プロジェクト活動 アンケート集計結果

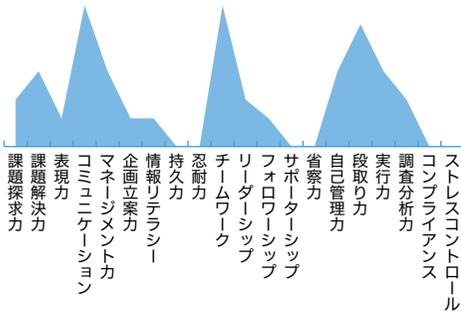
授業開始時

Q1 チームとしてのプロジェクト活動に「必要と思われる要素」を選んで下さい

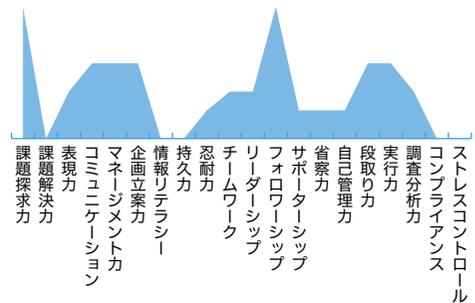


春学期終了時

Q1 チームとしてのプロジェクト活動に「必要と思われる要素」を選んで下さい

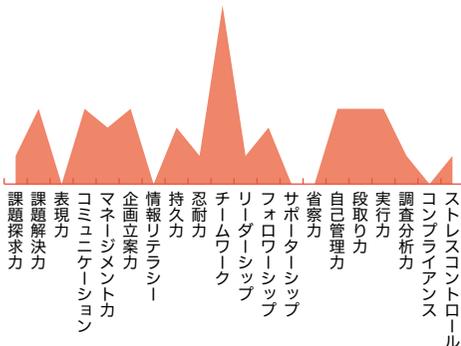


Q2 プロジェクト活動を通して実際にあなたが「身についたと思う要素」を選んで下さい



授業終了時

Q1 チームとしてのプロジェクト活動に「必要と思われる要素」を選んで下さい



Q2 プロジェクト活動を通して実際にあなたが「身についたと思う要素」を選んで下さい

